令和5年度　新人教育計画パス

	卒後1年目看護師												2年目看護師					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	6月	7月	9月	10月	12月	2月
院内研修	・新入職員オリエンテーション・接遇 ・医療安全管理対策概論 ・基礎看護技術（清潔援助・移動動作・酸素吸入・吸引・点滴・採血など） ・感染対策①　・ヘルスアセスメント ・認知症患者の対応　・褥瘡対策 ・看護必要度　・入退院支援の基礎 ・看護記録　・与薬と誤薬防止	・基礎看護技術（輸液ポンプ・シリンジポンプ） ・感染対策② ・災害時初期行動	・放射線の安全管理 ・医薬品の取り扱い（麻薬・向精神薬など） ・3か月振り返り（夜勤前）	・輸血 ・BLS	・エンゼルケア/グリーフケア	・心電図 ・6か月振り返り（固定チームナーシング） ・事故発生時の対応	・看護過程/看護診断					・1年振り返り	・2年目フォローアップ研修 ・気管内挿管、二次救命処置	・リーダーシップ	院内留学（透析・手術・外来ケモ）→	・施設内防災訓練 ・看護過程/看護診断 ・看取りに関する法規やガイドライン		
eラーニング	キャリアラダーⅠ認定のための必須研修の実施												キャリアラダーⅠ又はⅡ認定のための必須研修の実施					
院外研修			本部新人研修	（本部新人研修）														
病棟内での進行	・病棟内の構造の把握 ・日勤のみ ・先輩看護師と部屋持ち ・OJT →	・先輩看護師にアドバイスを受け、一人で部屋持ちを行う →		・優先順位の決定 夜勤開始 →		・転入受入れ（支援を受けながら） ・入院受入れ（支援を受けながら）		受持ち開始										

※キャリアラダーレベルⅠ習得を目指す

※キャリアラダーレベルⅠ習得者はレベルⅡを目指す

技術チェックリスト					
1. 療養環境技術	□環境整備　□ベッドメーキング　□臥床患者のシーツ交換				
2. 食事援助技術	□食生活支援　□食事援助　□嚥下訓練	□経鼻胃管　□胃ろう　□腸ろう　□胃ろうの管理　□腸ろうの管理			
3. 排泄援助技術	□排尿介助　□排便介助　□排泄介助：ポータブルトイレ	□グリセリン浣腸　□摘便 □膀胱留置カテーテル挿入・抜去：女性、男性	□導尿		
4. 活動・休息援助技術	□移乗・移送：ストレッチャー、車椅子　□歩行介助　□体位変換	□関節可動域訓練　□廃用症候群の予防	□入眠・睡眠への援助　□行動制限（身体抑制・拘束）　□せん妄に対する看護		
5. 清潔・衣生活援助	□全身清拭　□洗髪　□口腔ケア　□入浴・シャワー浴介助 □陰部洗浄　□手浴　□足浴　□おむつ交換　□整容　□寝衣交換				
6. 呼吸・循環を整える技術		□酸素吸入療法　□気管吸引　□薬剤吸入 □口腔・鼻腔吸引　□体温調整	□呼吸理学療法：体位ドレナージ　□人工呼吸器の装着と管理		
7. 創傷管理技術		□褥瘡のアセスメント　・処置・予防	□創傷処置　□包帯法		
8. 与薬の技術	□経口与薬　□外用薬与薬　□直腸内与薬　□皮内注射 □皮下注射　□筋肉注射　□静脈注射　□輸液管理	□輸液ポンプ　□シリンジポンプ　□輸血の管理と実施 □輸血時の副作用　□抗菌薬の用法と副作用の観察 □インスリン製剤の種類・用法・副作用の観察	□麻薬の投与・投与中の観察　□毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤・抗がん剤の管理 □中心静脈カテーテルの挿入・抜去　□中心静脈カテーテルの管理		
9. 救命・救急処置技術	□意識レベルの把握	□心肺蘇生法	□気管挿管の準備と介助　□止血法		
10. 症状・生体機能管理技術	□バイタルサインの測定　□身体の計測　□静脈血採血 □検体の採取方法（尿定性）　□血糖値測定	□12誘導心電図の装着と管理　□心電図モニターの装着と管理	□動脈血採血　□検体の採取方法（24時間蓄尿・中間尿）		
11. 苦痛の緩和・安楽確保の技術	□安楽な体位の保持　□温罨法　□冷罨法	□リラクセーション	□精神的安寧を保つための看護ケア		
12. 感染防止の技術	□スタンダードプリコーション　□手指衛生　□滅菌手袋の着脱　□滅菌ガウンの着脱 □感染症対策（インフルエンザ・コロナ）	□滅菌物の取り扱い　□医療廃棄物の取り扱い　□針刺し防止策と針刺し発生時の対応　□医療機器の洗浄・消毒・滅菌			
13. 安全の技術	□誤薬の予防　□患者誤認防止　□転倒・転落の予防	□放射線の暴露防止			
14. 死亡時のケアに関する技術		□死後のケア			
15.検査・治療			□経皮経肝胆道ドレナージ		
面接	チームリーダーと面接	主任と面接	師長と面接		
ガイドライン	新人看護職員研修ガイドライン：看護職員としての到達目標	・基本姿勢と態度についての到達目標 ・管理的側面についての到達目標	・基本姿勢と態度についての到達目標 ・管理的側面についての到達目標	・基本姿勢と態度についての到達目標 ・管理的側面についての到達目標	

※実地指導者・主任が中心となり、新人チェックリスト全項目の到達を目指す

※各職場スタッフは積極的に1・2年目看護師育成を行う

各職場で適宜目標管理面接

キャリアラダー					
職業倫理と地域貢献	レベルⅠ：厚生連職員として社会的信用の重要性を認識し、社会規範や倫理と照らして行動する。				
組織的役割遂行能力	レベルⅠ所属部署で割り当てられた簡単なルーティンの作業を担当する。看護チームでは自己の役割を**理**解し、チームメンバーの一員として行動する。				
自己教育研究能力	レベルⅠ：自己の課題を発見し自主的な学習に取り組む。ストレスと向き合い、助言を得て前向きに考える。自己の行動、出来事を振り返り意味づける。				
看護の核となる実践能力（各部署の実践例を活用する）	レベルⅠ：基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する。				
	業務上のアウトカム	・病棟の構造、日勤の業務がわかる ・支援を受けながら、複数の患者を受持つことができる	・支援を受けながら夜勤ができる ・優先順位を考えながら業務ができる	・支援を受けながら、転入・入院が受けられる	
	ニーズをとらえる力	・支援を受けながらケア受け手の必要な情報が何かを知る	・ケア受け手の状況から緊急度をとらえることができる	・支援を受けながらケア受け手に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる	レベルⅡ：ケアの受け手や状況（場）のニーズを自らとらえる
	ケアする力	・支援を受けながらケア受け手に基本的看護技術ができ、6月までに達成すべき内容を安全に実施できる	・支援を受けながらケア受け手に基本的看護技術ができ、9月までに達成すべき内容を安全に実施できる	・支援を受けながらケア受け手に基本的看護技術ができ、1年間に達成すべき内容を安全に実施できる	レベルⅡ：ケアの受け手や状況（場）に応じた看護を実践する
	協働する力	・なんでも報告・連絡・相談ができる	・支援を受けながら医師に報告ができる ・タイムリーな報告・連絡・相談ができる	・ケア受け手を取り巻く関係者の多様な価値観を理解し、情報を共有できる ・チームの一員としての役割を理解できる	レベルⅡ：看護の展開に必要な関係者を特定し、情報交換ができる
	意思決定を支える力	・ケア受け手とコミュニケーションをとり、思いを知ることができる	・患者カンファレンスに参加しケア受け手や周囲の人の意向を知る	・患者や家族の思いや考え、希望を知ることができる	レベルⅡ：ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる

参考：キャリアラダーレベルⅡの定義（各部署の実践例を活用する）

レベルⅡ：厚生連職員として社会・組織貢献を意識し、関連する活動に参加する。倫理的課題に気づき報告する。

レベルⅡ：リーダーシップを学びながら、所属部署でプリセプターの役割や係のリーダーとしての役割を遂行する。看護チームでは自立してメンバーシップを発揮する。

レベルⅡ：自己の課題達成に向けて学習活動を展開し、看護実践に取り組む。ストレスに適切に対応し、また実践を振り返り意味づける

レベルⅡ：標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する

令和5年3月13日作成